

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	安全・安心パトロール事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	平成16年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	刑法犯認知件数は減少傾向だが特殊詐欺や不審者情報が絶えない。交通人身事故発生件数は減少傾向だが依然として県下でも事故が多い地域である。また、パトロール隊員の高齢化・人員減が顕著であり、今後事業の方向性やパトロール体制の見直しが必要である。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	犯罪の未然防止、市民の防犯意識の高揚を目指すことで、犯罪発生、街頭犯罪や振り込み詐欺、不審者による声かけ事案などの抑止を図る。また、交通安全意識の向上を目指す。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	青色回転灯を装着した防犯・交通パトロールカー4台により、児童・生徒の下校する時間帯を中心に地域を巡回する。巡回にあたっては、事前に警察や教育委員会から提供された情報をもとに、学校園や交番、ATMへ立ち寄り、犯罪情報を提供すると共に地域での情報収集を行い、地域の状況に応じたパトロールを行う。併せて、交通ルールの遵守を促す音声を流し、交通安全意識の啓発を行う。

【コスト】

	令和2年度（決算見込）	
事業費合計	12,069 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	500 千円
	一般財源	11,569 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	020 防犯のまちづくり支援事業

【コスト推移】

	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（決算見込）
事業費合計	11,794 千円	11,905 千円	12,069 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	安全・安心パトロール事業は、地域の犯罪の防止・抑止、交通事故の防止に繋がっており、非常に有効である。しかし、パトロール隊員の高齢化・人員減が顕著であり、今後同様のパトロール体制維持が困難と考えられるため、事業の方向性や体制の見直しが必要である。

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	安全・安心パトロール事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	263,697	262,308	261,041

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
巡回パトロール件数	件	952	964	910
巡回パトロールでの立寄り件数	件	10,044	14,352	15,365
活動指標分析結果	振り込め詐欺防止対策活動として、コンビニエンスストアATMへの立寄り、駐留警戒・店舗従業員との情報交換を積極的に実施した。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,407	2,025	1,684	令和8年度	1,800
交通人身事故発生件数	件	1,560	1,369	952	令和8年度	1,050
成果指標分析結果	巡回パトロールによる犯罪抑止や交通安全に関する注意喚起により、刑法犯認知件数、交通人身事故発生件数ともに前年の件数と比較して減少している。					

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	地域見守り防犯カメラ設置補助事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	平成25年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	加古川警察署管内は、刑法犯認知件数が県下においても多い地域であり、女性や子どもを対象とした不審者情報が絶えない。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	まちづくり防犯グループ等の地域団体が行う防犯カメラの設置を促進し、犯罪の未然防止、市民の防犯意識の高揚、地域防犯力の向上を目指す。
対象 ※誰、何に対して	まちづくり防犯グループ等の地域団体
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	まちづくり防犯グループ等の地域団体が行う防犯カメラの設置に要する経費の一部を補助する。

【コスト】

	令和2年度(決算見込)	
事業費合計	1,280 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	1,280 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	025 地域見守り防犯カメラ設置補助事業

【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算見込)
事業費合計	1,515 千円	1,840 千円	1,280 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	<p>これまで防犯カメラの設置ができていなかったまちづくり防犯グループ等の地域団体が防犯カメラの設置に取り組みされており、新たに防犯カメラを設置する地域が広がっている。そうしたことで、地域の犯罪の抑止に繋がり、市民生活の安全・安心につながることから事業の必要性は高い。</p>

事務事業名	地域見守り防犯カメラ設置補助事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
まちづくり防犯グループ等の地域団体	団体	320	320	320

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
まちづくり防犯グループ等の地域団体補助件数	件	14	15	11
まちづくり防犯グループ等の地域団体補助金額	円	1,515,490	1,840,000	1,280,000
活動指標分析結果	令和2年度は11団体に対して補助を行った。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
防犯カメラ整備率	%	32.2	34.1	35	令和2年度	10
成果指標分析結果	防犯カメラを設置している地域が増え、市内の防犯カメラ整備率は35.0%となった。					

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	防犯のまちづくり支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	平成16年度 ～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	地域防犯活動については、活動団体を対象に年2回会議を実施し、警察の講義や活動団体からの実践報告を行っている。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	地域の防犯活動団体への支援や防犯に関する講座を実施することで、市民の防犯意識向上や防犯活動団体の活動を活発化する。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	地域防犯活動団体連絡会議で防犯活動に必要な物資の配布を行うとともに、防犯活動団体相互の情報交換を行う。

【コスト】

	令和2年度(決算見込)	
事業費合計	564千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	564千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	020 防犯のまちづくり支援事業

【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算見込)
事業費合計	783千円	906千円	564千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	地域防犯活動団体へ向けて、「自らの安全は自ら守る」、「地域の安全は地域で守る」といった防犯意識を継続して高めていくことになり、有効性が高い。

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	防犯のまちづくり支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	263,697	262,308	261,041

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
講座回数	回	1	1	1
講座参加者数	人	44	46	35
活動指標分析結果	参加者のアンケート結果によると、今後の防犯活動に活かせる講座内容の充実が今まで以上に求められている。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,407	2,025	1,684	令和8年度	1,800
成果指標分析結果	防犯リーダー養成と各地域防犯活動団体の活動が、刑法犯認知件数の前年比341件減少に貢献した。					

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	防犯協会事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、詐欺被害、女性や子どもを対象とした不審者の情報が絶えない。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	警察などの関係機関と連携し、犯罪の未然防止のための活動を行い、市民生活の安全を確保し、明るく住みよいまちづくりを推進する。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	防犯キャンペーン・広報活動・街頭啓発・少年非行防止活動・防犯研修会等を防犯協会の組織を通して実施するため、加古川地区防犯協会に負担金を支出する。

【コスト】

	令和2年度(決算見込)	
事業費合計	7,935 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	7,935 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	020 防犯のまちづくり支援事業

【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算見込)
事業費合計	8,518 千円	8,477 千円	7,935 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	加古川地区防犯協会において、防犯に関する広報活動や街頭啓発に取り組んでおり、犯罪防止や市民生活の安全の確保に有効である。

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	防犯協会事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	263,697	262,308	261,041

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
街頭啓発回数	回	4	4	2
活動指標分析結果	加古川警察署や加古川地区防犯協会と連携して街頭啓発を引き続き実施する。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,407	2,025	1,684	令和8年度	1,800
成果指標分析結果	街頭啓発や住民大会等の実施により刑法犯認知件数は、前年度と比較して減少している。					

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	ICTを活用した安全・安心のまちづくり推進事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	平成29年度 ～ 永年
事業区分	⑥市施策事業(臨時)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	市内全28小学校区の通学路や学校周辺等を中心に設置した1,475台の見守りカメラの正常な維持管理を行った。また、見守りサービスの普及に取り組んだ。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	加古川市まち・ひと・しごと創生総合戦略で設定したKPI(刑法犯認知件数:目標値1,800件(2026年)・交通人身事故発生件数:目標値1,050件(2026年))を達成する。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	市内全28小学校区の通学路や学校周辺等を中心に設置した1,475台の見守りカメラの正常な稼働を維持する。また、必要に応じて見守りカメラの効果的な配置を再検討し、移設を実施する。また、見守りカメラの設置に係る周知、見守りサービスの普及啓発を行う。

【コスト】

	令和2年度(決算見込)	
事業費合計	58,629千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	58,629千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	040 ICTを活用した安全・安心のまちづくり推進事業

【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算見込)
事業費合計	207,961千円	56,248千円	58,629千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	<p>市内全28小学校区の通学路や学校周辺等を中心に設置した見守りカメラ1,475台の維持管理を行うとともに、必要に応じて移設を行った。また、警察の捜査に画像データを提供し、協力することが事件の早期解決に役立っている。</p>

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	ICTを活用した安全・安心のまちづくり推進事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	263,697	262,308	261,041

【事業実績】

活動指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
画像提供件数	件	662	876	803
見守りサービス加入者数	人	1,016	1,193	1,123
活動指標分析結果	捜査機関への画像提供件数は803件。サービスの更なる利用促進のため、令和2年10月より認知症高齢者等のサービス利用時の費用全額補助を実施、令和3年度より新小学一年生の初期登録料と月額利用料を無料とした。			

【事業成果】

成果指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目標値
刑法犯認知件数	件	2,407	2,025	1,684	令和8年度	1,800
交通人身事故発生件数	件	1,560	1,369	952	令和8年度	1,050
成果指標分析結果	カメラ設置以降の刑法犯認知件数は減少している。					

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	犯罪被害者等支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	平成29年度 ～ 永年
事業区分	⑥市施策事業（臨時）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	犯罪被害者基本法、加古川市犯罪被害者等支援条例、加古川市犯罪被害者等支援条例施行規則

【事業概要】

現状と課題	犯罪被害者等支援取り組みについては、関係機関や民間支援団体との連携が必要不可欠である。また、二次的被害をなくすための啓発活動もより一層進めていく必要がある。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	犯罪被害者等の被害を早期に回復させるとともに、再び平穏な生活を営むことができるよう支援する。犯罪被害者等の二次的被害を軽減する。
対象 ※誰、何に対して	市民、犯罪被害者等
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	犯罪被害者等に総合的な支援を実施するとともに、市民へ被害者支援の啓発を行う。

【コスト】

		令和2年度（決算見込）
事業費合計		441 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	441 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	22 生活対策費
細目	030 犯罪被害者等支援事業

【コスト推移】

	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（決算見込）
事業費合計	80 千円	99 千円	441 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	現状どおりの事業手段で維持することが適当と思われる。

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	犯罪被害者等支援事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口（10／1付推計人口）	人	263,697	262,308	261,041

【事業実績】

活動指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
命の大切さを学ぶ授業参加人数（中学校）	人	285	292	56
命の大切さを学ぶ学習会参加人数（職員）	人	23	25	28
犯罪被害者等支援講演会参加人数	人	0	65	0
活動指標分析結果	継続的に学習会や講演会を開催することで、犯罪被害者等の置かれている立場や支援の必要性への理解が深まっている。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目 標 値
犯罪被害者等支援に関する相談件数	件	0	0	1	令和2年度	0
犯罪被害者等支援金給付件数	件	0	0	1	令和2年度	0
成果指標分析結果	継続的に学習会や講演会を開催することで、犯罪被害者等支援について周知・啓発が図られている。					

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	交通安全対策事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	～ 永年
事業区分	⑤市施策事業（経常）
地区別	市内全域
関連根拠法令等	

【事業概要】

現状と課題	交通事故発生件数は毎年減少傾向にあるものの、依然として高齢者や自転車に関係する事故は多発しており、高齢者団体や学校園等から交通安全教室の開催要望は多い。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	市民一人一人へ、交通ルール・マナーの遵守及び交通安全意識を高揚させることにより、交通事故防止を図る。
対象 ※誰、何に対して	市民
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	加古川警察署や加古川交通安全協会などの関係機関と連携しながら交通安全普及啓発活動や交通安全教室を実施する。

【コスト】

		令和2年度（決算見込）
事業費合計		1,392 千円
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	1,392 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	02 総務費
項	01 総務管理費
目	09 交通安全対策費
細目	010 交通安全対策事業

【コスト推移】

	平成30年度（決算）	令和元年度（決算）	令和2年度（決算見込）
事業費合計	2,529 千円	2,142 千円	1,392 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	交通安全啓発活動、交通安全教室を継続して行うことは、市民の交通安全に対する意識の向上、交通ルールやマナーを身につけることにつながっており、効果的である。しかし、依然として多発している高齢者の事故、自転車関係事故の撲滅を重点事項と位置づけて事業を実施する。

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	交通安全対策事業	部局名	市民協働部
		課(室)名	生活安全課

【対象】

対象指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
加古川市人口(10/1付推計人口)	人	263,697	262,308	261,041
市内小学校の児童数	人	14,574	14,418	14,127
市内中学校の生徒数	人	7,064	6,927	6,973

【事業実績】

活動指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
交通安全教室の開催	回	98	88	18
街頭啓発回数	回	45	38	1
活動指標分析結果	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、街頭啓発と交通安全教室はほぼ中止となった。街頭啓発は、秋の全国交通安全運動期間中の駅前啓発のみ規模を縮小して実施した。交通安全教室は、保育所等・幼稚園・小学校を対象として18回実施した。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目 標 値
交通人身事故発生件数	件	1,560	1,369	952	令和8年度	1,050
成果指標分析結果	人身事故件数は減少しているが、交通事故撲滅のため引き続き交通安全教室・街頭啓発を実施する。					

加古川市事務事業評価シート〈令和2年度実施事業〉

事務事業名	交通安全指導員事業	部局名	教育総務部
		課(室)名	学務課

【基本情報】

基本目標	01 安心して暮らせるまちをめざして
政策	03 市民生活の安全・安定を確保する
施策	03 防犯・交通安全対策を推進する
事業実施期間	昭和43年度 ~ 永年
事業区分	⑤市施策事業(経常)
地区別	市内全域
関連根拠法令等	加古川市交通安全指導員の設置及び運営規程

【事業概要】

現状と課題	全国でも登下校中の児童の事故が多発している。市内通学路にはハード面での安全対策が困難な箇所も多く、ボランティアによる見守りにも様々な課題があるため、公開事業評価において「不要・凍結」と判定されたが、交通安全指導員に対するニーズは高い。
目的 ※対象(誰・何)をどのような状態にしたいのか	①児童を交通事故から守る②児童の交通安全に対する意識が向上する③児童が交通安全に関する知識を習得する
対象 ※誰、何に対して	加古川市立小学校に在籍する児童
事業内容 ※目的達成のための手段・手法	加古川市立小学校児童の登下校における交通安全を図るために、通学路の危険箇所に交通安全指導員を配置する。

【コスト】

	令和2年度(決算見込)	
事業費合計	48,821 千円	
財源内訳	国庫支出金	千円
	県支出金	千円
	地方債	千円
	その他特財	千円
	一般財源	48,821 千円

【会計】

会計	01 一般会計
款	10 教育費
項	08 保健体育費
目	01 保健体育総務費
細目	015 交通安全指導員事業

【コスト推移】

	平成30年度(決算)	令和元年度(決算)	令和2年度(決算見込)
事業費合計	52,176 千円	48,360 千円	48,821 千円

【総合評価】

総合評価 ※妥当性・有効性・効率性の視点をもとに総合的に判断した評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	児童の登下校の安全確保のための取組は必要である。通学路の危険箇所には引き続き交通安全指導員を配置するとともに、PTA、地元町内会、学校支援ボランティアと連携し、交通事故の防止に努める。

加古川市事務事業評価シート（令和2年度実施事業）

事務事業名	交通安全指導員事業	部局名	教育総務部
		課(室)名	学務課

【対象】

対象指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
市立小学校児童数	人	14,574	14,418	14,127

【事業実績】

活動指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度
交通安全指導員配置箇所数	箇所	97	98	98
小学生の登下校中における交通事故件数	件	6	4	3
活動指標分析結果	令和2年度は、交通安全指導員を98箇所に配置し、市内小学校の通学路における危険箇所については、概ね配置できていると考えている。ハード面での整備や指導員の配置等により、児童の登下校時における交通安全に努めているところである。			

【事業成果】

成果指標名	単 位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	目標年度	目 標 値
交通安全指導員配置時の交通事故件数	件	0	0	0	令和3年度	0
成果指標分析結果	令和2年度は小学校の登下校時において3件の交通事故が発生した。うち、交通安全指導員配置時に交通事故は発生していない。					